2022年11月10日

各　位

会　社　名　　日本板硝子株式会社
コード番号　　5202
本社所在地　　東京都港区三田三丁目5番27号
代　表　者　　森　重樹
問 合 せ 先　　IR部長　源甲斐　洋行
電　　　話　　03-5443-0100

個別開示項目費用の計上、および 2023年3月期第2四半期（累計）業績予想と実績値との差異、通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2023年3月期第2四半期において、個別開示項目費用の計上を行いました。また、2022年8月5日に公表した2023年3月期（2022年4月1日～2023年3月31日）の第2四半期（累計）連結業績予想と本日公表の実績値との間に差異が生じ、通期の連結業績予想も下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

Ⅰ．個別開示項目費用の計上について

当社は、2006年のピルキントン社買収に伴って発生したのれんおよび無形資産のうち、欧州における自動車用ガラス事業に関わる残高の全額について、減損損失48,776百万円を個別開示項目費用として計上しました。この減損額は、同事業における使用価値と資産の帳簿価額を比較することにより算定しました。使用価値は同事業の将来キャッシュ・フローを当第2四半期末時点での債券や資本市場における一般的な条件に基づく適切な割引率で割り引いて算定しました。当社は、引き続き同事業が中期的には改善すると見ていますが、主に当第2四半期の欧州における金利上昇を受けて割引率が上昇した結果、減損損失を認識しました。

Ⅱ．2023年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値と実績値との差異 （2022年4月1日～2022年9月30日）

（百万円）

	売上高	営業利益	税引前利益（△損失）	当期利益（△損失）	親会社所有者に帰属する当期利益（△損失）	基本的1株当たり当期利益（△損失）（注）
前回発表予想(A)	360,000	11,000	9,000	4,000	3,000	22円26銭
実績値(B)	375,651	14,437	△34,543	△37,006	△38,816	△438円08銭
増減額(B－A)	15,651	3,437	△43,543	△41,006	△41,816	△460円34銭
増減率(%)	4.3%	31.2%	－	－	－	－
参考：前期実績	290,687	12,700	14,727	9,557	8,598	84円02銭

(注)基本的1株当たりの当期利益（△損失）については、A種種類株式にかかる配当金の影響を考慮した数値を記載しています。

Ⅲ. 2023年3月期通期連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）の修正

（百万円）

	売上高	営業利益	税引前利益（△損失）	当期利益（△損失）	親会社所有者に帰属する当期利益（△損失）	基本的1株当たり当期利益（△損失）（注）
前回発表予想(A)	690,000	18,000	11,000	5,000	4,000	22円56銭
今回修正予想(B)	740,000	18,000	△35,000	△38,000	△41,000	△472円71銭
増減額(B−A)	50,000	−	△46,000	△43,000	△45,000	△495円27銭
増減率(%)	7.2%	−	−	−	−	−
参考：前期実績	600,568	19,980	11,859	6,759	4,134	24円07銭

（注）基本的1株当たりの当期利益については、A種種類株式にかかる配当金の影響を考慮した数値を記載しています。

Ⅳ. 差異および修正の理由

1. 2023年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値と実績値との差異の理由

売上高および営業利益については、円安に伴う主要通貨に対する為替影響と、特に建築用ガラス事業を中心に販売価格上昇により投入コストの大部分を軽減することができた結果、8月に公表した予想数値を上回りました。

一方で税引前損失、当期損失、親会社所有者に帰属する当期損失については、上記Ⅰの通り欧州における自動車用ガラス事業について、のれんおよび無形資産の減損損失を個別開示項目として計上した結果、8月に公表した予想数値を下回りました。

2. 2023年3月期通期連結業績予想の修正の理由

売上高については上方修正しましたが、これは円安に伴う為替影響と、主に建築用ガラス事業における販売価格上昇が予想されることを踏まえたものです。

一方で、営業利益については、下期も原燃材料費の高止まりやインフレ拡大および金利上昇による潜在的な景気後退などのリスク要素を引き続き見極める必要があることから、据え置いています。税引前利益（損失）、当期利益（損失）、および親会社所有者に帰属する当期利益（損失）については、主に上記Ⅰの通り当第2四半期において、欧州における自動車用ガラス事業について、のれんおよび無形資産の減損損失を認識したため各々下方修正しました。

今般の減損損失の計上は、ピルキントン社買収に伴って発生したのれんおよび無形資産残高のうち、欧州における自動車用ガラス事業に関わる残高の全額について行いました。これは主に割引率が上昇したことによるものであり、自動車生産台数回復の兆しや高騰した原燃材料費の自動車メーカーに対する価格転嫁が実現している折、当事業が中期的には改善するとの見方に依然変更はありません。当社は、引き続き中期経営計画（RP24）で掲げた財務基盤の回復を推進して参ります。

<2023 年 3 月期第 2 四半期決算説明資料より抜粋>

2023年3月期通期業績予想

想定を上回る上期実績を踏まえ、通期売上高予想を上方修正。
依然不透明な下期の事業環境を見極める必要から、営業利益予想は引き続き据え置き

(億円)	2023年3月期 上期予想 (前回)	2023年3月期 上期実績	2023年3月期 通期予想 (前回)	2023年3月期 通期予想 (今回)	2022年3月期 通期実績
売上高	3,600	**3,757**	6,900	**7,400**	6,006
営業利益	110	**144**	180	**180**	200
個別開示項目 (純額)	20	**△ 449**	20	**△ 450**	36
個別開示項目後営業利益 (△損失)	130	**△ 305**	200	**△ 270**	236
金融費用 (純額)	△ 60	**△ 66**	△ 130	**△ 130**	△ 125
持分法適用会社に対する金融債権の減損損失	-	**-**	-	**-**	△ 34
持分法による投資損益	20	**32**	40	**50**	75
持分法投資に関するその他の利益 (△損失)		**△ 7**			△ 34
税引前利益 (△損失)	90	**△ 345**	110	**△ 350**	119
当期利益 (△損失)	40	**△ 370**	50	**△ 380**	68
純利益 (△損失) *	30	**△ 388**	40	**△ 410**	41

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

2022年11月10日 | 2023年3月期第2四半期決算報告

(注) 上述の業績予想等は、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市況、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

以 上